

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 12年3月)

～コア CPI 上昇率は小幅なプラスが続く見込み

経済調査部門 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI は市場予想を上回り2ヵ月連続のプラス

総務省が4月27日に公表した消費者物価指数によると、12年3月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比0.2%（2月：同0.1%）となり、上昇率は前月から0.1ポイント拡大した。事前の市場予想（QUICK 集計：0.1%、当社予想は0.2%）を上回る結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比▲0.5%（2月：同▲0.6%）、総合は0.5%（2月：同0.3%）となった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
11年 1月	▲0.6	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲1.0
2月	▲0.5	▲0.8	▲1.3	▲0.5	▲0.8	▲0.9
3月	▲0.5	▲0.7	▲1.4	▲0.7	▲0.8	▲1.0
4月	▲0.4	▲0.2	▲1.1	▲0.7	▲0.5	▲1.0
5月	▲0.4	▲0.1	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.6
6月	▲0.4	▲0.2	▲0.8	▲0.6	▲0.4	▲0.7
7月	0.2	0.1	▲0.5	0.1	▲0.1	▲0.4
8月	0.2	0.2	▲0.5	▲0.2	▲0.2	▲0.6
9月	0.0	0.2	▲0.4	▲0.3	▲0.1	▲0.4
10月	▲0.2	▲0.1	▲1.0	▲0.5	▲0.4	▲1.0
11月	▲0.5	▲0.2	▲1.1	▲0.9	▲0.5	▲1.2
12月	▲0.2	▲0.1	▲1.1	▲0.4	▲0.3	▲1.1
12年 1月	0.1	▲0.1	▲0.9	▲0.2	▲0.4	▲1.1
2月	0.3	0.1	▲0.6	▲0.2	▲0.3	▲1.1
3月	0.5	0.2	▲0.5	▲0.1	▲0.3	▲1.0
4月	—	—	—	▲0.3	▲0.5	▲1.0

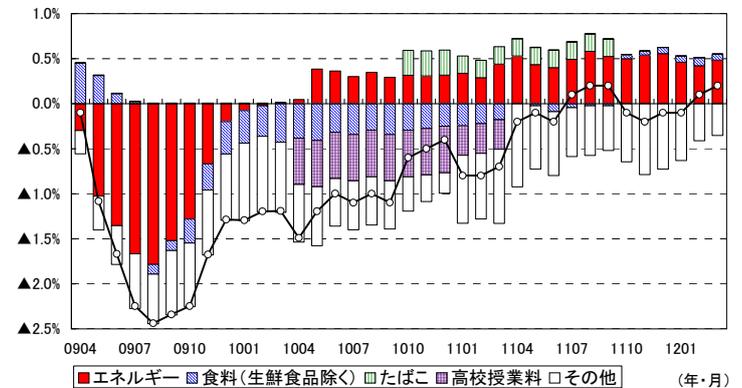
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳をみると、電気代（2月：前年比6.9%→3月：同6.9%）、ガス代（2月：前年比4.7%→3月：同4.4%）の上昇幅は前月とほぼ変わらなかったが、灯油（2月：前年比4.3%→3月：同6.1%）、ガソリン（2月：前年比3.4%→3月：同4.9%）の上昇幅が拡大したため、エネルギー価格の上昇率は2月の前年比5.2%から同5.7%へと拡大した。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比0.3%（2月：同0.4%）と6ヵ月連続の上昇となった。また、新製品投入の影響で1月に前年比▲36.1%から2月に同0.5%と一気にプラスに転じたテレビは3月には同2.3%と上昇幅がさらに拡大した。

コア CPI 上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.48%（2月は0.42%）、食料品（生鮮食品を除く）が0.07%（2月は0.09%）、その他が▲0.35%（2月は▲0.41%）であった。

消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解

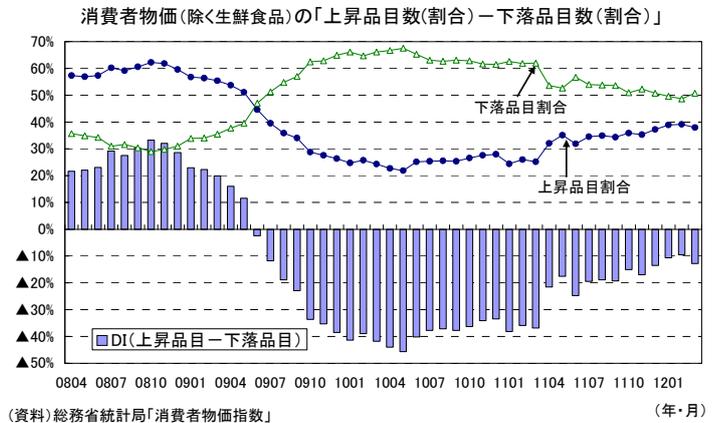


2. 物価下落品目数の割合が再び50%を上回る

消費者物価指数の調査対象524品目（生鮮食品を除く）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると、2月の上昇品目数は199品目（2月は205品目）、下落品目数は266品目（2月は255品目）となり、下落品目数が4ヵ月ぶりに増加した。

上昇品目数の割合は38.0%（2月は39.1%）、下落品目数の割合は50.8%（2月は48.7%）、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は▲12.8%（2月は▲9.5%）となった。

コアCPI上昇率はプラスとなっているが、品目数で見れば全体の半分以上が下落している。物価上昇に裾野の広がりが見られないことを示したものと言えるだろう。

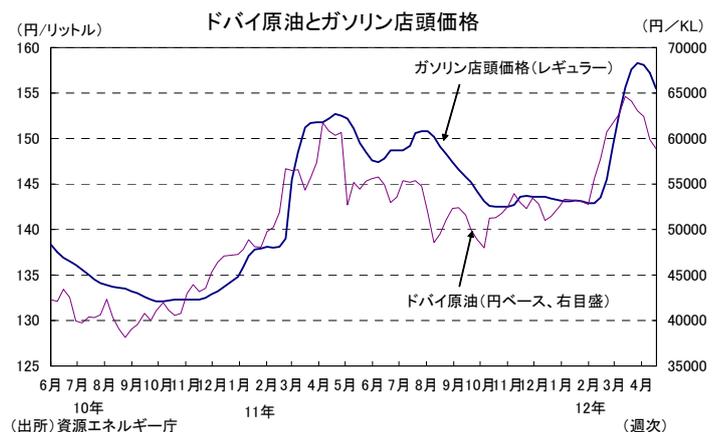


3. コアCPIは小幅なプラスが続く見込み

12年4月の東京都区部のコアCPIは前年比▲0.5%（3月：同▲0.3%）となり、下落率は前月から0.2ポイント拡大した。事前の市場予想（QUICK集計：▲0.3%、当社予想は▲0.4%）を下回る結果であった。食料品（生鮮食品を除く）が3月の前年比▲0.2%から同▲1.2%へと下落幅が拡大したことが、コアCPIを0.2ポイント程度押し下げた。東京都区部の食料品は12ヵ月連続の下落となり、上昇を続けている全国とは対照的な動きとなっている。

東京都区部のコアCPI上昇率のうち、エネルギーによる寄与が0.42%（3月は0.46%）、食料品（生鮮食品を除く）が▲0.25%（3月は▲0.02%）、その他が▲0.68%（3月は▲0.75%）であった。

ガソリン店頭価格は4月初旬には160円（レギュラー、全国平均）近くまで上昇したが、直近3週間は下落するなど、ここに来て落ち着きを見せている。エネルギー価格は引き続き消費者物価の押し上げ要因となるが、前年の水準が高かったこともあり押し上げ幅が大きく拡大することはないだろう。コアCPI上昇率は当面小幅なプラスで推移することが予想される。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保證するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。